カントの説いた「国際的な連合」と 現実の国際連合の間にある共通点や相違点は どのようなものか

『永遠平和のために』(カント) 前田 崇宏

このテーマを選んだ理由

• カント『永遠平和のために』の中で

・ 「国際的な連合」

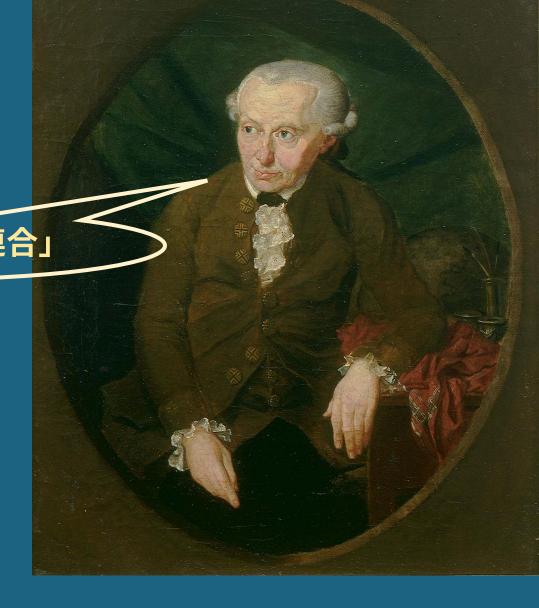
• 現実世界で



国際連盟



国際連合



[画像]

国際連合と平和

A)国際連合=平和維持活動

・国連平和構築委員会:「**紛争後**の平和構築と復旧のための 統合戦略を助言及び提案」



:「すべての**子ども**の命と権利を守る」



:「難民問題の拡大、複雑化に対応する」

B)国際連合が成立するまで

1914 ——	- 第一次世界大戦 開戦 。
1918 ——	- 第一次世界大戦 <mark>終戦</mark> 。
1920 ——	ー <mark>国際連盟</mark> 発足。ヴェルサイユ条約に署名した国々により構成。
1932 ——	ー 日本(大日本帝国)が <mark>脱退</mark> 。
1933 ——	ードイツ(ナチス・ドイツ)が <mark>脱退</mark> 。
1939 ——	一 第二次世界大戦 <mark>開戦</mark> 。
1945 —	ー 第二次世界大戦 <mark>終戦</mark> 。東西冷戦へ向かう。
	— 国際連合 発足。

カントの主張

カントの定義と主張

- 永遠平和 : すべての戦争を恒久的に終わらせるもの
 - ▶国際法(世界市民法)などが必要となる

→これは「古典的」な国際法とは大きく異なる

国家 :個人の集まりかつ民族単位で構築されたもの

→みずからの権利が守られるように多民族に要求できる

→これが集まって**国際的な連合**になる

ふたつの「国際的な連合」の比較

ふたつの「国際的な連合」

- A) 公開性・公共性 →現代では<u>重視</u>
- B) 資本主義
 - ▶カント「『商業の精神』は戦争とは 両立できない」
 - →そんなことはなかった
- C) 国際法
 - ▶性質上、現在のものに<u>近い</u>か?
 - →常任理事国の強権など、実態には少し問題あり?



まとめ

考え続ける、の重要さ

- ・カント 資本主義の行く先を**予測しきれなかった**
- 現実 国同士の上下関係

「どちらが良いか」は単純には決められない

常に現実の俯瞰、理論の考察を続ける必要がある。

参考文献一覧

- カント『永遠平和のために/啓蒙とは何か 他3編』 (光文社, 2006)
- 外務省「国連平和構築委員会(UN Peacebuilding Commission: PBC)(概要)」 (https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/peace_b/gaiyo.html)、2022年10月12日閲覧。
- 日本ユニセフ協会「ユニセフについて」 (https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_unicef.html)、2022年4月10日閲覧。
- UNHCR日本「UNHCR(ユーエヌエイチシーアール)とは? (https://www.unhcr.org/jp/history-of-unhcr)、2022年4月10日閲覧。
- ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典「第1次世界大戦」(https://japan.eb.com/rg/article-06774200)、2023年1月5日閲覧。
- 木村靖二『第一次世界大戦』(筑摩書房, 2014)207、208頁。
- ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典「第2次世界大戦」(https://japan.eb.com/rg/article-06875300)、2023年1月5日閲覧。
- ・ マーク・マゾワー『国連と帝国』(慶應義塾大学出版会, 2015)